



## 河合正治先生のご逝去を悼む

文学部 岸田裕之

広島大学名誉教授河合正治先生は、去る3月7日に脳梗塞のため逝去された。享年75歳であった。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

先生は、昭和14年に広島文理科大学を卒業ののち、同21年に広島高等師範学校教授、26年広島大学文学部助教授、40年以来教授として53年の停年退官まで国史学教室の充実・発展に尽すいされた。また、47年に広島大学文学部に設置された内海文化研究室の初代室長、文学部長、広島史学研究会理事長、広島県文化財保護審議会委員等を務め、共同研究の推進、大学の管理運営、学界の発展や地域の学術文化の向上等に多大の貢献をされた。

ご専門の分野では、日本中世武家社会について、政治、社会、経済、ならびに武士の教養や信仰等を含む文化の諸方面から多面的に

解明され、その斬新な発想に基づく諸成果は『中世武家社会の研究』に結実した。また歴史上の人物や地域史研究にも深い関心を寄せ、『安国寺恵瓊』、『足利義政』、『安芸毛利一族』や、『瀬戸内海の歴史』などを著され、あわせて『広島県史』、『新修広島市史』、『福山市史』、『三原市史』、『矢野町史』、『海田町史』等を編纂・執筆された。

広島大学退官後は私立福山大学に勤務されたが、63年に辞職し、ご郷里の鳥羽市に近い名古屋市に転居されていた。そして、『小早川隆景』の執筆を残る課題とし、その意欲を欠かされなかった。先生が残る課題に傾けた情熱を思うとき、必ずやその出版をお慶びする機会がくると信じていただけに一層哀惜の感にたえない。

